

元越山登山道と狼煙台

米水津「色利浦元越山へ登る会」

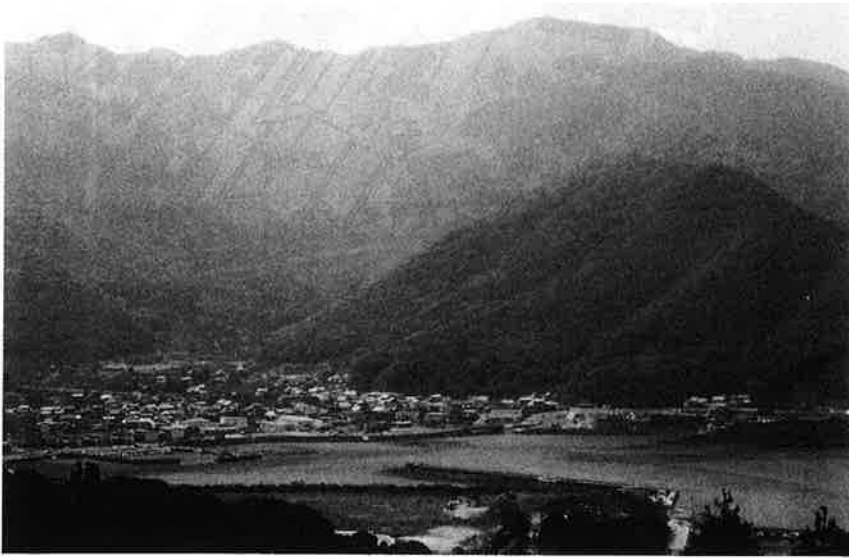
富松俊夫

元越山に登る道は、木立村を経由して佐伯城下に通じる本道であったことから、代官所に行くための山越え道として古い時代より開通していたと色利浦の古老は言う。その古道も近年はほとんど通る人もなく荒れ放題であった。

元越山はその三六〇度の展望の良さで山登り仲間の間ではよく知られており、九州各地から木立側登山道を登ってくる人が年々増えてきている。

私は毎日のように元越山を仰ぎ見ているうちに、このすばらしい山を越える由緒ある古道を再現できないかという思いが日増しに強くなってきた。

そして今年（平成十九年）二月、山登りの好きな知り合い二、三人に計画を語り、修復作業に取りかかった。



元越山と色利浦

三人が五人になり、五人が八人になって、伝え聞いた人達が手弁当で参加し始めた。倒木を片付け、斜面を削り、杭を打って急な坂道には丸太の段を作った。

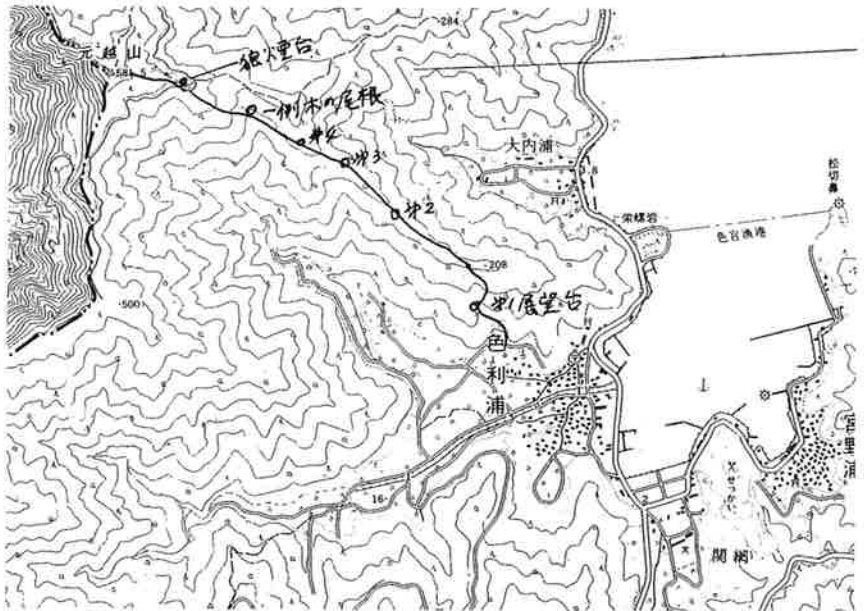
雑木やシダに覆われて獣道にしか見えないが、確かに昔の人たちが道筋を付けた古道を忠実に探りながら修復し、延べ百数十人を越える作業で古道は登山道として甦った。更に頂上までの途中、展望の良いところでは視界を遮る雑木を最小限切り開いて四カ所の休憩所を設けた。

この山頂に近い休憩所で珍しいものを見つけた。

四〇年の間を置いた二カ所の「石組み台」である。「何だろうか、最も天望の利くこの場所ならちよつとした合図を上げれば浦代から宮野浦までどこからでも見える。なにかの合図場所か？」

下山して古老に聞くと、「狼煙台」があったと聞いたことがあるという。

登山道を整備しながら、距離を測り、写真を撮った。(別紙写真・地図) 狼煙台だとすればいつ頃の年代のものか、どのように使われていたのか、古文書





下の台からの展望



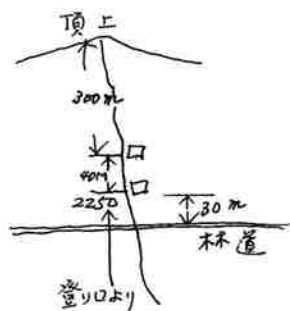
下の台石組み



下の台石組み

に記録があるか、狼煙台でなければ何か？疑問は残る。
ここに紹介して各位の検証とご意見をお願いします。
平成19年3月25日

狼煙台付近図





上の台



上の台からの展望



上の台石組み



上の台石組み

【参照】

○佐伯領番所 正徳六年（二七一六）

一、番所四ヶ所、蒲江浦、小浦、大島

浦、保戸島浦、以上は兼ねて仰せ

出されたる通り、旅船入念相改め

公儀御城米船渡海の砌は、城下へ

注進仕り、風雨の節若し破船これ

有り候へば助船差出し、上荷物相

改め、万一異国船等相見へ候節は早速

注進仕り候様、申付け置き、右四ヶ所

には高札を立つ。

※海上番所は遠見山とセットになって機能したが、負担軽減のため遠見番は廃止された。蒲江波当津の遠見山、大入島の遠見山など地名を残こす遺構もあるが、狼煙台の石組みは仙崎や小浦でも確認されている。

彦岳（彦岳城）や元越山は、あるいは梅牟礼城時代の戦乱期に遡る可能性も考えられる。